

第9号 20円

昭和42年6月25日

オリエンテーション特集号

内容

第六回財団法人評議員会	2
講堂兼体育館・図書館の竣工	3
オリエンテーション特集号	4
新入学生歓迎セミナー	5
オリエンテーション特集号	8

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行

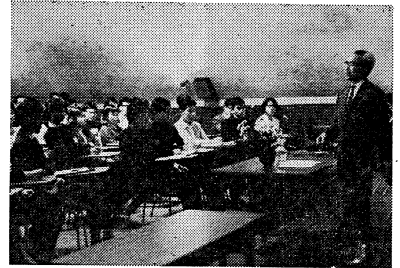
財団法人 大学セミナー・ハウス

《所在地》
東京都八王子市下柚木
電話 0426-42-4041-2

《東京事務所》
東京都中央区日本橋本町3の3
三井銀行本町支店ビル3階
電話 東京(270)4431
振替口座 東京 74590番

編集・発行人 飯田宗一郎

製作 中央公論事業出版



数学者で物理学者である学問の大先輩、ポアンカレの著書『科学者と詩人』を読んで、私が一番印象づけられたのは、科学者とは謙遜でかつ情熱的であるということでした。日本の科学全体がそうでしょうが、ことに自然科学はほとんど明治以後に輸入されたもので、言い替えば日本は科学を建設した国ではないわけです。私どもの先輩の先生というのは外国で大学教育を受けて帰って来られた。つまり海外で科学を学んだ方が権威者であり、その権威者は誠意をもって後輩に知識を与えるというのが日本の科学、あるいは科学教育の状態でありました。それが私たちに印象づけられていて、謙遜とは相容れない権威者として科学者を考えていたのです。ところが自分で科学を建設し伝統をもって科学を研究してきた国の科学者というのは、まず第一に謙遜なものであるのです。つまり権威の

あるものではない。だから私どもとみなさんとは全く同じ人間、ともにこれから科学を建設していく友だちであります。科学を育てるということとは真実のみ忠実であるということですよ。権力あるいは財力によって真実を曲げようとするものには、情熱でもって反対するということが、怒らないではないけれども真の科学者の条件であります。ですから情熱的でない科学者は真の科学者ではないということが言えるのであります。

自分自身を知る

—— 科学者の条件 ——

ところで私は自分の専門から研究者をみていると、研究者を五つに分類できると思うのです。第一類というのは天才的な人。つまり人に見えないものが見える人、こういう人は独創的なことをしようという人です。第二類は大部分の優秀な学者の態度なのですが、この場合の目標というのはその人だけに見える目標ではない。多くの学者が見える目標なのです。その目標に対して、第二類の人はどうすれば最も能率よく、最も早く達せられるかということをよく考えてその道を行くの

です。第三類は、私はこれに属していると思っていますが、目標は第二類の場合と同じなのです。ところが目標に向かって能率よく行うとしないので下を見ながら、わき見をしながら、楽しみながら行くのです。言い替えば第一類の人は遠くの方にあつて普通の人にはよく見えない山が見える。第二類の人はこちらの近い山を登るのにはどれが一番最短距離かを考える。私はそれをしないでブラブラ歩く。第二類の人が頂上へ早く登りつくかもしれないが、登り

東京大学教授 江上不二夫

そういう仕事なのです。第四類は人に見えない山を見つけて登って行く天才の後を大急ぎで追いかけて行く人です。第五類は人の問題というよりむしろ態度の問題になります。自然科学は、お金もかかるし設備もいる、人間もいる。しかし小さな大学、研究室では非常に優秀なおられる方も研究費が少ない、設備がない、あるいは若い協力者もいないということ、立派な研究ができないのが現実だと思ふのです。学問は大きな山ばかりでなく小さな山も調べる必要があるわけですから、自分はいくらで大きな山に登ったり、後を駆け回ったりすることができないのだから、地道に小さな山を調べようという研究態度もそれはそれで立派なわけです。

きつて振り返ってみると、よい景色も鑑賞できた。よい花も見ることができた、つまりいろいろと得ることがあるのです。たまにはよい物が落ちていてそれを拾うかもしれない。みなさんは笑ったが、それが大事なのです。つまり落ちていっているのは人はいない所をウロウロしていると見つかるわけですよ。人の気付かなかつた研究問題がそこにあるわけです。私が今までの数十年の研究生活でいくらかでも世界の学問に寄与した、あるいは国際的に高く評価されている仕事があるとすれば、それはみな

私の見るところ、日本の科学者は大体この五つに分類される。どれがよいとか悪いとか言うのではなく、結局人間というのは自分自身を知ることがまず第一なのです。自然科学であつたら自分の性質を知ると同時に、研究者になったら自分の置かれてある研究室の現状や条件——経済的・人的条件を考えなくてはならないが、何よりも自分の性格を知って、自分の性格はこういう態度で進むのがよいということを理解していくことが大事だと思うのです。

(新入学生歓迎セミナーの全体講義の概要、文責在編集者)

第六回財団法人評議員会

昭和四二年五月一日
議長明治大学総長武田孟氏

新年度事業計画と予算
拡充計画資金募集承認

昭和四一年度決算

二二、一八一、五三四円

(一、七五四、四三〇円の赤字)

昭和四二年度予算

三〇、八五五、〇〇〇円

(利用料金、会員校会費増額に
よる増収八〇〇万円を計上)

財団法人大学セミナー・ハウスの維持運営の基本的方針を決定する評議員会は、五八名のうち五一名(委任状による出席者三三名)の出席者をもって経団連会館において開催された。今回は評議員の枠を広げ、学界の長老にもおは



《評議員会の議事》 正面右より齋藤、上代、茅、増田、大河内、武田の各先生

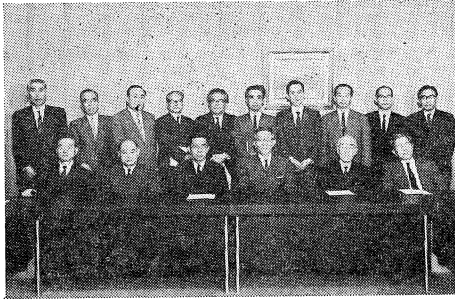
りいただいたので、齋藤勇・吉田富三両博士もお顔を見せられた。当日の出席者は左記のとおりである。

増田四郎、大河内一男、茅誠司、上代たの、石館守三、村井賢長、実吉純一、団勝磨、中村康治、永田菊四郎、山田良之助、若林竜夫、平塚益徳、近藤頼巳、武田孟、齋藤勇、吉田富三(敬称略) 評議員議長の中央大学総長升本喜兵衛氏が出張不在のため、武田明大総長を議長に選出し、増田理事長の挨拶と一般報告をもって議事に入る。

昭和四一年度決算

岡田・木村両監事の監査

決算において一七五万円余の不足額を生じたが、この赤字をうめる財源もないので、次年度予算に繰越すこととなる。



評議員会を終わってならんだところ

予算額は前年度より八〇〇万円の増加であるが、セミナー・ハウス開設第三年目にして利用状況も進展し、当初の予定より利用人員も増加したので、宿泊費の増収も見込まれ、かつ会費の値上げによる増収もあること故、予算における収入増はまず期待できよう。

支出の増額は、物件費の増加、講堂兼体育館、図書館の新築に伴い維持費の増加および給与改訂の人件費の増加が主なるものである。

会員校の会費増額について

基本会費 一〇〇、〇〇〇円

学部割会費 五〇、〇〇〇円

四二年度予算の増額部分を何に よって収入増を考えるかは理事会の苦心したところであるが、セミナー・ハウスの利用者は大部分学生なので、学生負担だけによる増収は好ましくない。そこで会員校の会費を値上げすることによって三〇〇万円の増収を見込み、利用者の料金も値上げて五〇〇万円の増収を図る。

基本会費五万円を一〇万円に

学部割会費四万円を五万円に

四二年度事業計画

施設拡充計画のため本年度より一億五千万円の募金をすることに ついては第八号に詳細報告したとおりである。募金の成績に 応じて、講堂兼体育館、図書館、セミ ナー室、宿舍などの新増築が行な われるはずである。

大学共同セミナーも本法人の特

色ある教育活動なので、本年も年 六回の予定で活潑に行なわれるはずである。

終身理事制の設置

飯田宗一郎の四氏を終身理事に 推挙する。

財団法人の理事は主として会員 校の現職の学長または総長をもっ て当ているが、創立当初発起人 であった元学長や総長も入ってい るし、寄付行為は理事の資格につ いて特別の規定を設けていない。

昭和四一年一〇月一四日の理事 会は終身理事の制度を設けること を決め、本法人の創立に大きな寄 与をした大浜信泉、茅誠司、上代 たの、飯田宗一郎の四氏を終身理 事に推挙した。評議員会はこの決 定を全員一致をもって承認した。

〔A〕 大学別利用回数調

- 1 早稲田大学 七三回
- 2 東京都立大学 六八回
- 3 慶応義塾大学 五七回
- 4 東京大学 五三回
- 5 中央大学 四〇回
- 6 青山学院大学 三三回
- 7 東京工業大学 三二回
- 7 日本女子大学 三二回
- 7 日本大学 三二回
- 7 明治学院大学 三二回
- 8 東京女子大学 二八回
- 9 法政大学 二〇回
- 10 一橋大学 一四回

〔B〕 教官別利用回数調

- 15 回上智大学教授 鈴木 皇
- 13 早稲田大学教授 川原栄峰
- 12 東京大学助教 西村秀夫
- 11 明治学院大学助教 吉田 裕
- 10 日本女子大学 一番ヶ瀬康子
- 7 東京大学助教 杉山 好
- 6 東京工業大学教授 益子正巳
- 6 日本大学教授 岩井 肇
- 〔5〕 広野良吉(成蹊大)、村井 実(慶大)、藤永保(東女大)、村 松林太郎(早大)、関田寛雄(青学 大)、山岡喜久男(早大)
- 〔4〕 石橋秀雄(日女大)、矢野 茂樹(都立大)、川口浩(成蹊 大)、伊丹潔(都立大)、栢野晴夫 (法政大)、戸塚元吉(東大)、井上 宇市(早大)、永井道雄(東工大)、 高村象平(慶大)
- 〔3〕 阿部統(東工大)、広瀬謙 二(武工大)、岩尾裕純(中大)、 岩崎力(東外大)、井上宇市(早 大)、石塚巖(慶大)、井出義光(日 女大)、小竹豊治(慶大)、春日井 博(早大)、片桐邦郎(慶大)、川 島甲士(芝浦工大)、三和治(明学 大)、増田茂樹(明学大)、永山武 夫(早大)、岡安信男(明学大)、霜 島甲一(法政大)、佐藤誠三郎(立 教大)、十代田三知男(早大)、酒 枝義旗(早大)、芝田進午(法政 大)、高橋勇悦(明学大)、内山正 熊(慶大)、吉沢英子(日女大)、 山口喬(慶大)、吉阪隆正(早大) (敬称略)

開館二周年を迎えて

セミナー・ハウスの

マスタープラン完成

講堂兼体育館、図書館竣工

昭和四二年七月一日

二周年記念と落成式

すばらしきかな！ 講堂が建つ。うれしいかな！ 体育館が建つ。感謝すべきかな！ 図書館が与えられる。セミナー・ハウスのマスタープランがここに完成する。

セミナー・ハウスの活動が開始されてより、教授たちや学生諸君のアンケートの中には体育施設がほしい、講堂がほしい、図書館がほしいという要望が多かった。大浜理事長が創立の落成式の換

拶の中で講堂は近い機会に実現したいものだと思われたが、大浜先生の着想が功を奏し、日本自転車振興会が体育館新築に補助金をくれるということになり、計画は進展した。佐藤喜一郎三井銀行会長を後援会長とする募金計画もこれに歩調をあわせて進行した。

何がこのように講堂と図書館の実現を早めたか。教授と学生がセミナー・ハウスを利用するからである。日本の大学の中にセミナー

1・ハウスの存在理由が明らかになったからである。開館二周年記念式が講堂と図書館の献堂式になるというこのすばらしい出来事に深い意味を求めたい。

七月一日落成式を挙げる講堂兼体育館と図書館の概要は左記のとおりである。

〔講堂〕 四二四・九三平方メートル (二二八・七六坪)

〔二階〕 講堂兼体育館ホール

〔地階〕 機械室、洗面所

〔図書館〕 一九四・二二平方メートル (五八・八二坪)

〔一階〕 閲覧室

〔地階〕 書庫、和室(二室)

〔建築面〕 六一九〇五平方メートル

〔積合計〕 (一八七・五八坪)

工費 四、二三〇万円

工事 清水建設株式会社

設計 早大吉阪研究室

講堂・図書館の

設計が目指すもの

早稲田大学教授 吉阪隆正

セミナーに参加の全員が一堂に会することのできる場所は、最初の企画のときから考えられていたことであつたから、その位置については問題はなかつた。本館から丘の頂へのブリッジも、それを予定してのものであつた。

しかしその形については、内容も正確に定めていなかった。

おぼろげな像しか描いていなかった。大学セミナー・ハウスの全体がそうであるように、この講堂もなるべく自然の丘陵の姿を生かすものにしたと考へていたし、場合によっては丘の中にもぐってしまつたものでも考へていた。特に本館の隣にあり、高い所につくられるとしたら、本館を圧倒するようなものになりかねないので、それでは中心を失つてしまふという考へであつた。

二〇〇人三〇〇人を一同に入れるということは容積からいえば、本館の食堂位のものになるのであるから、かなり強い要素となりかねない。そこへさらに図書室を加えることになつたのであるから、全体としては床面積でもセミナーの諸施設の中で重要なものとなる。

本館の屋根にあわせ、丘陵のカーブを考へて、球面の一部を屋根に考へたのはこの辺からであつた。

しかし構造的に、予算的にどこまで計画と合致させられるかが問題であつた。また球形の天井の音響も処理されなければならなかつた。

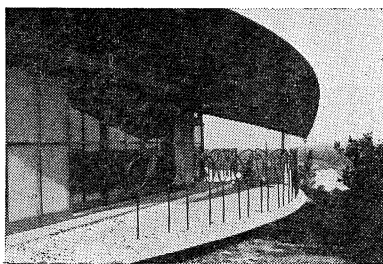
丘の上からの眺望は誠によい。この方向はできるだけ開放したことも考へ、丘陵の凹凸を利用して二本の柱で屋根を支えることになつた。これは平面が自ずから対角線を軸とするようになるのだが、既に早大の大教室などで試みられ

たように、意外と多人数を意識させない効果がある。

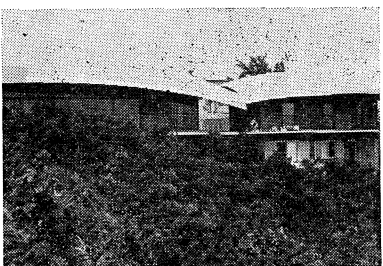
中央セミナーの時には、声を近くに感じさせて、多人数を感じさせないというか、互いの身近さを与えて来たのだが、今度はそれよりも倍以上の人数である。エレクトロニックスの利用は考えられるとしても、セミナーの精神は肉声による親近感、心のふれあひの方を大切にするとすれば、なるべくなら一度電波を通じるようなことはしたくなかつた。球面のドームも形の上から一つに包まれていて心理的効果がほしかつたからである。

しかし球面は外から眺められる時、それは縦横にのびる形ではない。図書室やゼミ室を加えようと思つと、同じドームの下に入れるか、別棟になるかである。同じドームに入れるためには、ドーム自体が大きくならねばならずそれは無駄な空間をいづばいにつくる。別棟にすれば、とつてつけたようなものになりやすい。そこでこれらの屋根も球面を利用したドーム式とすることで、講堂とのつながりでもあり、ユニットの形をも若干連続させるようにして、連続性を持たせたのであつた。幸にして地形の傾斜が利用できた。

大枠はこれで定まつた。あとは仕上げの肌触りや色合だし、使い勝手のためのこまごました道具だてをどう調和させてゆくかである。



講堂バルコニー



向かつて右は図書館、左は講堂

オリエンテーション特集

大学共同体をつくる試み
大学生活の指標を求めて

新入学生を迎え入れた大学にとつて、四、五月はいわばオリエンテーション・シーズンである。セミナー・ハウスとしても大学側の企画に積極的に協力することができた。来年はさらに、こうした行事が多くなるであろうから、どの大学がどのような形式のオリエンテーションを行なったかを紹介し、参考にさせていただくため、特集したわけである。

各大学の教授たちの熱心さと相俟って大きな成果が上がったようである。四年後にもう一度同じ顔ぶれでここに集まったときの学生たちの感想をききたいものである。

各大学の行なったオリエンテーションには規模の大小がある。最も数が多いのは小規模のもので新しく編成したゼミナールの顔合わせである。紛争の結果、早大でも二年からゼミができたそうで大長老の酒枝義旗教授もゼミの学生をつれて来られた。中規模なのは東京女子大の心理学科でこれは昨年につづいて伝統のある学科単位のオリエンテーションである。慶応大学の西洋史学科が慣例を破ってゼミナー・ハウスに来られた。大規模なのが新入生全員が参加する本格的オリエンテーションである。人数の多い武蔵工大の如きは一泊二日で連続一日間行ない、山田学長も泊り込みという熱の入れ方であった。津田塾大学、お茶の水女子大学も二回に分けて行なったが二〇〇名収容力のゼミナー・ハウスを利用するとすれば、そうした工夫が必要である。会員校以外では白梅学園短大その他の短大も同様のオリエンテーションを行ない大学個々の特長を發揮された。

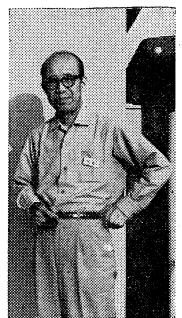
現在の大学に対する批判は区々であるが、制度の問題を議論するよりも大学がまず動き出さなければならぬ。この特集の中から新しい形式の大学教育が静かに力強く進展していることがわかるであろう。

心理学科ゼミに出席して

東京女子大教授 相良 守次

朝、出掛けに、今日から二晩、学生と一緒に山にいつてくる、と家人にいうと、どこかの山にゆくのか、と私のカバンをみてげげんそうに訊く。八王子だと答えると、大笑いして、へー、八王子が山なの、という。八王子の近郊に、こんな幽すいな地がひそんでいるのを知らない人間は、案外に多い。実は私も、最初に訪れるまでは、こんなに簡単に来られるところとは、想像していなかった。麓の方では昨年からの宅地造成がはじまっていたので、ゼミナー・ハウスからの景観がかわされるところまでそれが伸びはしないかと、気にしてきたが、前のままの渺茫とした眺望で、安心した。

心理学科の全学年一二〇名前後の人数で、二泊三日のゼミをはじめたのは昨年からだだが、学生には大変に評判がよい。専門学科に初めて進学した二年生は、上級生と膝を交えて語り合っており、この学科の人になったという自覚を確かなものにすらし、教室のゼミでは聊か控え目にすぎぬ上級生も、ここに來ると発測として、よく論ずる。座談会になると、心理学科にきて一年も経ったら、友人のような構えができてきて、それが



相手の信頼を裏切るような自責を感じて仕方がないひとりが慰えれば、私も分析する態度をもつようにはなつたが、それが相手を疵つけるとは思わない、却ってそれで私の相手に対する理解をふかめることになると信じている、というような率直な意見もすらすらと述べ合う。

ここでの生活は、勉強以外にもいろいろと得るものがある。ゼミに來合させた他大学の大学院生から交歓を申しこまれたといつては、同席のわれわれ教官をそっちのけにして、深夜まで賑かに語り合う。コンパの夜は、先生方をモデルにした寸劇で、大いに溜飲をさげる。こういうことでは、不測の彼女たちの観察のこまかいところを披露して、教官連を愕然とさせる。

元來このゼミは、学生側の希望によつてはじめたので、その計画は学生側に委ねることにしてあるが、ゼミの合い間には級集会などをもつて、四年次の学生は就職運動の手腕を相談したり、短い期間に結構いろいろの趣向を盛りこんで、満足した気分帰ってゆくうだ。

実施校	期日	人数
大学セミナー・ハウス新入学生歓迎セミナー	5/3 — 5	(51名)
武蔵工業大学新入生オリエンテーション	4/17—27	(1,311名)
津田塾大学フレッシュマンキャンプ	5/12—13	(167名)
	5/19—20	(145名)
東京女子大学心理学科セミナー	5/29—31	(111名)
慶応義塾大学西洋史学科セミナー	6/1 — 2	
お茶の水女子大学新入生オリエンテーション	7/1 — 4	(375名)
和泉短期大学学外研修会	5/9 —11	(112名)
白梅学園短期大学オリエンテーションセミナー	5/13—15	(56名)
	5/16—18	(109名)
協同組合短期大学農業協同組合科グループ指導	6/3 — 4	(80名)

新入学生歓迎

セミナー

主題——大学と人間——

〔昭和四二年五月三、四、五日〕

〈全体講義〉

「学問をする姿勢・大学生活の意味」

東京大学教授 堀米 庸三
東京大学教授 江上不二夫

〈ゲスト〉

一橋大学学長 増田 四郎
慶応義塾大学教授 高村 象平

〈セクション指導教授〉

東京大学助教授 折原 浩
上智大学教授 鈴木 皇
東京大学助教授 西村 秀夫
国際基督教大学助教授 小塩 節

日本女子大学助教授 一番ヶ瀬康子

成蹊大学助教授 広野 良吉
東京外国語大学助教授 岩崎 力

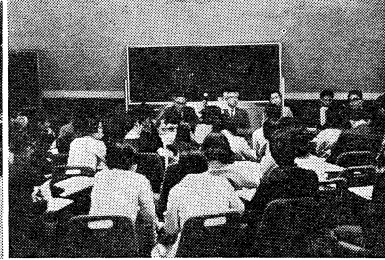
東京女子大学助教授 藤永 保

〈参加学生〉

五一名うち女子二〇名
東大(八)、早大(四)、日本女子大(一五)、慶大(四)、青山学院大(四)、東京女子大(三)、武蔵工大(四)、東外大、横濱国大、法政大、立教大、成蹊大、津田塾大、神奈川大、理科大各一名

〈運営助手〉

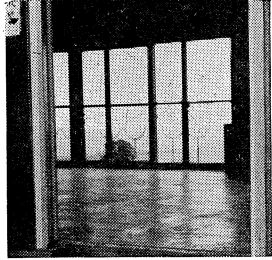
芳山邦弘、海老沢克之、伊藤修、飯尾右一、大川陽子、川原良江



シンポジウム (増田・江上両教授を囲む)



レクリエーション風景 (食後)



図書館の入口

感想

参加した教師として——

小塩 節

大学新入生を迎えてのオリエンテーションとは、学内諸生活・諸設備案内という事務的な面と、大学人たる基本的本質的な問題を考えさせるといふ精神的な面と、二つあるだろう。今回おこなわれたオリエンテーションは、むしろ後者の意味でおこなわれ、「自分から考える」原動力を、まっとうから与えるものであった。参加した学生ひとりひとりの魂のなかに、この三日間のチャレンジがどのように受けとめられ、彼らの生涯を形成する文化意欲への、どんな起爆力になっていくだろうか。おそろしく、想像するのもおそろしいほどの、深いところに力強い種子が蒔かれたにちがいない。それについて、確信できる。

というのは、参加した若い教師として、ほくも心の奥深くゆり動かされ、もう一度「自分で考える」力と手がかりとを、多くのすぐれた先達たちから豊かにあたえられ、今日もその感謝の想いはつきないからである。

多くの本務校では、学生ストの結果、まだ新入生を迎え入れることもできない。このセミナーの途中で、ぼくは夜半車をとぼして三鷹に帰り、夜はガードマンとともに

に夜警につき、朝は教授会に出て、また八王子にとびかえった。荒涼たる廃墟と化した学園と、美しい八王子とのあいだを走りながら、ぼくはしかし、まだ日本の大学は完全には絶望ではない、という想いを噛みしめていた。

(国際基督教大助教授・独文学)

すばらしい三日間でした。こんなすばらしい施設があることを会う人ごとに伝えたい。「大学と人間」のテーマは私の今までの悩みをまさに指適したものでした。和気あいあいの雰囲気の中で、テーマをそれぞれの角度から真剣に討議してきた三日間でした。ほんとうに参加してよかったと思えました。(日本女大 大吉礼子)

今まで、このような精神的感動つまり自分の問題意識が実感としてわいたことは初めてです。大学四年間が充実した生活であることも誓って感謝のかわりいたします。

(武蔵工大 佐久間純郎)

先生方の熱心で、親身な態度は感謝と信頼の心を起こさせずにはいなかった。同学年の人達の真剣で率直な態度に驚き、うれしく感

じた。自然と正直になれる雰囲気があった。一人の先生が、「君たちはしあわせだねえ。こういう催しがあるなんて。」とつぶやかれたことを、私は決して忘れないうろう。(早大 増永美佐子)

このセミナーでの収穫は何であったらうかと、三週間たった今考えてみて、貴重な体験、愉快な思い出などいろいろあるが、何はさておき友人が一度に数多くできたことを掲げねばならぬだろう。(都立大 三枝健之進)

第一一回大学共同セミナー
東京大学法学部 丸山真男教授
〔期日〕 昭和四二年九月八、九、一〇日
〔資格〕 東大法学部以外の国公立大学に在学する二年以上の学生。

〔テキスト〕 岩波新書「日本の思想」
〔募集人員〕 約五〇名
応募学生はこのセミナーに参加を志望する理由を八〇〇字程度にまとめて提出すること。

〔参加経費〕 三、五〇〇円
第一二回大学共同セミナー
東京大学名誉教授塚富雄氏による文学セミナー
〔期日〕 昭和四二年十一月三、四、五日(予定)

学生の反響

〔A〕

すばらしい三日間でした。こんなすばらしい施設があることを会う人ごとに伝えたい。「大学と人間」のテーマは私の今までの悩みをまさに指適したものでした。和気あいあいの雰囲気の中で、テーマをそれぞれの角度から真剣に討議してきた三日間でした。ほんとうに参加してよかったと思えました。(日本女大 大吉礼子)

今まで、このような精神的感動つまり自分の問題意識が実感としてわいたことは初めてです。大学四年間が充実した生活であることも誓って感謝のかわりいたします。

(武蔵工大 佐久間純郎)

先生方の熱心で、親身な態度は感謝と信頼の心を起こさせずにはいなかった。同学年の人達の真剣で率直な態度に驚き、うれしく感

じた。自然と正直になれる雰囲気があった。一人の先生が、「君たちはしあわせだねえ。こういう催しがあるなんて。」とつぶやかれたことを、私は決して忘れないうろう。(早大 増永美佐子)

このセミナーでの収穫は何であったらうかと、三週間たった今考えてみて、貴重な体験、愉快な思い出などいろいろあるが、何はさておき友人が一度に数多くできたことを掲げねばならぬだろう。(都立大 三枝健之進)

第一一回大学共同セミナー
東京大学法学部 丸山真男教授
〔期日〕 昭和四二年九月八、九、一〇日
〔資格〕 東大法学部以外の国公立大学に在学する二年以上の学生。

〔テキスト〕 岩波新書「日本の思想」
〔募集人員〕 約五〇名
応募学生はこのセミナーに参加を志望する理由を八〇〇字程度にまとめて提出すること。

〔参加経費〕 三、五〇〇円
第一二回大学共同セミナー
東京大学名誉教授塚富雄氏による文学セミナー
〔期日〕 昭和四二年十一月三、四、五日(予定)

このセミナーでの収穫は何であったらうかと、三週間たった今考えてみて、貴重な体験、愉快な思い出などいろいろあるが、何はさておき友人が一度に数多くできたことを掲げねばならぬだろう。(都立大 三枝健之進)

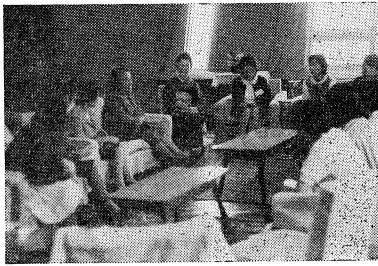
津田塾大学

フレッシュマン・キャン
プの夜から朝へ

津田塾大学助教授 山崎孝子

その夜のグループ別の話し合
は、十時半終了の予定が十一時に
及んだ。「人は何のために生きる
のか」という大問題に入って、予
定がのびてしまったのである。そ
れから小鳥の巣箱のような宿舎に
帰り、床に就いたのはもう十一時
半であつたらうか。窓外には柔か
い緑葉が揺れ、大地ははうばうし
さを思わせるような地虫らの声に
満ちていた。

朝、四時、薄明るくなる。四時
二十分、小鳥が囁き始める。四時
半、手帳をもって外へ出る。書き
とめておかなければならないこと
もものもいっぱいある。六時近く



学生たちと語る藤田学長

宿舎に帰り、へやを片づけ始めた
ところ、小型机の下に赤い本が覗
いているのを見出した。ギデオン
協会よりの聖書である。ぱっと開
いて目に入った聖句、
「神は死んだ者の神ではなく、生
きている者の神である。あなたが
たは非常な思い違いをしている。」
(マルコ伝十二章二十七節)

おどろくほど新鮮であつた。昨
夜の話し合いのとき以来、激のよう
に心の底に沈んでいる謎にもう一
度、この聖句から光を当てねばな
らない。ひょっとすると「非常な思
い違い」を平気で見ているかもしれ
ない。この一節前には「アブラ
ハム、イサク、ヤコブの神」とい
うあのパスカルの回心のときの有
名なことばが出てくる。「わが神、
汝の神、汝の神、わが神、哲学
者、科学者の神にあらず」と続く
パスカルのことばが思い浮んだ。
文字どおり朝ごとに新しい恵みで
あつた。

大学セミナー・ハウスのある丘
陵は何かしらスケールの大きさが
ある。谷が閉鎖的に内にこもら
ず、至るところ、展望がひらけ
る。日常の些事から解き放たれて
永遠を思うのにふさわしい場所
だ。人生も、文化も、幅広い視野
からもう一度見直させてくれる。
あれから二週間、あのとき丘の辺
で見出した金蘭、銀蘭の数本がい
まも眼裏に澄んでいるように、ゲ
ーテもパスカルも聖書もいたく新
鮮である。

ただ最後に一つ、誰でも行きさ
えずれば、収穫が得られるという
のではないこと、柔軟で素直な、
自然と人生との愛をみようとする
心だけは、ここでは何かを学ぶた
めにも最小限必要であることをつ
け加えておこう。

学生のアンケートに拾う

〔A〕

先生方を交えての討議が一番印
象に残った。尊敬する先生方の、
体験談をはじめ貴重な人生への意
見を直接聞くことができたこと、
同学年の人達が私と同じ悩みを持
ち、それについて今後の方向をど
う定めるかを話したため、私
の目の前が開けたことを本当に有
意義だったと思う。

〔B〕

迷える子羊が歩きだす方向を教
えられた。

〔C〕

以前は、自分に関する種々の問
題をただあれこれと、進展なく考
えているだけだったが、今回の生
活で、解決点の研究をせよと教え
られたような気がして、光明が与
えられたような気がした。すなわ
ち、現在および将来の道を開くき
っかけをつくってくれた。

風薫る五月の
セミナー・ハウス

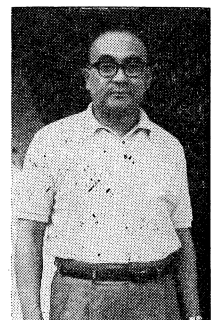
得難い経験を
つむむところ

東京工業大学教授 松田武彦
(経営工学科)

私の研究室で大学セミナー・ハ
ウスを利用するのは、昨年一月
に続いて、今回が二度目である。
多摩丘陵に来てみれば、五月の
風は、まさに「薫る」という言葉
そのままの爽かさである。

気分が新たになるせいも、学生
諸君のグループ研究における自発
性にも、発表討議の際の熱気にも、
ふだん大学の研究室で見るとは
異なるものが感じられる。ま
た、一步セミナー室を出て、ほか
のグループと一緒にいる場所では、
大学にいるときよりはちよっ
とばかりお行儀がよくなることな
ども、こういうところに来なければ
気がつかない点であろう。正直
に言って、うちの若い者も案外い
いところがあるわい、といささか
見直したものである。

昨年一月のときは、三日間
で、組織の行動科学に関する二百
頁ぐらいの英語の本を訳してしま
った。その馬力を買って、今回
は、経営システム工学の分野で、
私自身まだ疑問を残している問題
や、諸説乱立して收拾のつかなく
なっている点などを、三十あまり
の討論課題として与え、学生なり
に、これらに対する自分たちの意



見をまとめることを要求した。私
は、学生の就職のことや家庭の私
用もあって、途中でぬけ出したり
したが、学生諸君は、毎晩午前二
時とか、グループによっては四時
までも頑張っていたようである。
研究室の二人の助手にも、おつき
合いで苦勞をかけた。

発表・討論には、私も教えられ
るところが多かった。その内容
は、いずれさらに練り上げた上
で、私の名前で世に問うことにな
るのであるが、学生諸君のこの熱
意と努力をその中に反映させるこ
とが私の責任だと心得ている。

最後の夜は、東京女子大学の相
良教授、高田教授などのご好意
で、同大学心理学科四年生のお嬢
さん方と、合同コンバを開くこと
ができた。おかげで、またまた、
大学の中では見られない学生諸君
のビヘイビアを観察する機会を
得た。その上に、私個人として
は、ほかの大学の、しかも専門を
異にする先生方と、親しくお話し
できるという得難い経験をしたわ
けで、こういうこともセミナー・
ハウスの大きな効用の一つであ
らう。

武蔵工業大学

このセミナーは学友会が主催者となり、大学が全学挙げて支援参加したもので、参加者全員の経費を大学が負担することは勿論、学長みずから教員の先頭に立って、数日にわたり学生と寝食をともにしながら、「学生生活」というテーマのもとに、学問の学び方、課外活動、日常生活、人間関係等について話し合った。

このセミナーの間、いたるところで「僕は武蔵工大に入って本当によかった」という声が聞かれたことは、この催しがいかに、新入生に対して訴えるものを持っていたかを物語っているといえよう。

大学の教育方針が学生によく理解され、学生の希望が自由に討議される雰囲気の中から相互信頼が生まれ、大学共同体は教師と学生の実感にまで高められよう。



屋外でも教授を囲んで語り合う

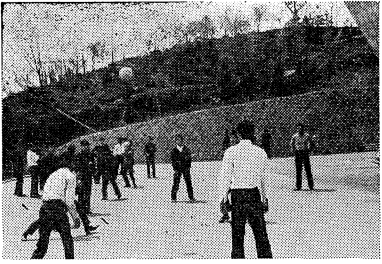
新入生歓迎

セミナーを終えて

武蔵工大学友会副執行委員長 四年 馬場孝悦

われわれがこのセミナーを企画した時、学内の反響は様々だった。主催および運営は学友会でなく大学でやるべきだとか、各科目に運営を全面的に(本学は単科大学で、各科目に学友会とは別個の学生自治体がある)委す方がよいとか、これを機会に研究会等のPRをしたいという要望などあったが、何回かの話し合いにより、われわれの主旨を各科の会長に理解してもらおうことができ、その上で次のように目的を成文化するまでになった。目的「クラスの友人並びに教授との接触を図り、進んで大学生としての自覚を持つための起因となること」。

われわれがこの目的を打ち出したのは、自分たちが真剣に「大学



セミナーの合間にスポーツを楽しむ学生たち

について」「大学生としての四年間の生き方」等を考えることもなく、過ぎた過去の日々への反省であり、われわれの後輩に同様の後悔をさせたくないという願いからであった。幸いにしてわれわれの考えに対し大学側の深い理解と全面的な協力が与えられ、個々の先生方からは時期、目的、主催団体等について種々の意見が出され、また私たちのまずい運営にもかかわらず温かく私たちを見守って下さったお蔭で、セミナーを順調に行なうことができた。

セミナーが終って一ヵ月以上たった今でも、一年生から「先輩」と声をかけられるなど、セミナー反応は予想以上であり、先生の所へ押し掛けて行く一年生も多いうだ。教授や一年生から「また来年も」という声が非常に多いので、武蔵工大の年中行事の一つにしたいものである。

大学セミナー・ハウスの必要性

経営学科一年 松浦文康

このように有意義なセミナーを今まで日本の大学においてどうして行なわれなかったのだろうか、というのがこの二日間における感想である。幸い、私がこのセミナーに最初に参加できたことを誇り

は、理想の男性像から始まって、

宗教論、芸術論にまで討議が進み、私も自分の意見を思う存分發表できたし、同じ仲間が随分しっかりした考えを持っていることに驚嘆した。

私は今日の大学のあり方について、少し生意気ではあるが、私なりの不満、疑惑を持っていた。しかしこのセミナーこそ大学の真のあり方であると思う。これから二年、三年後の専門課程において多くの教授、先輩たちの人間的つながりが必要であるが、一歩先駆けとしてその糸口を見つけたことは私にとって大きな収穫であった。このセミナーが武蔵工大内にとどまらず、他の大学との交流、意見の交換が今まで以上に必要になっていくのではないだろうか。いや、必要べからざるものであると私は思う。

東京女子大学心理学科

参加学生の報告

学生間や学生と先生方との交流、親睦を図るため、去年に引き続きセミナー・ハウスにやってきました。三日間を有意義に過ぎました。普段の講義の時の先生とは違い、人間味あふれたお話を聞かれました。友だちの新しい面を発見したり、共同生活の良さを満喫することができました。私たちの日程は次の通りです。 第一日(全体集会) テーマを

「心理と将来」と決めておいたのですが、皆の自由な発言で心理学に対する疑問などに移っていきました。

第二日(講演とディスカッション) 先生のご専門、または関心事について各先生の講演があり、自分の興味に従って自由に参加し、それについてのディスカッションを行ないました。(グループ・ディスカッション) 学生間の縦のつながりをはかるために自由に話し合いました。

第三日(バネル・ディスカッション)「心理学の役割と限界」自然に囲まれたこセミナー・ハウスは、思索にも勉強にも適し私たちを十分魅えらせてくれました。

昭和四二年五月二六日付官報 大蔵省告示第六八号 免税取扱期間

自昭和四二・五・二六 至同 四三・五・二五

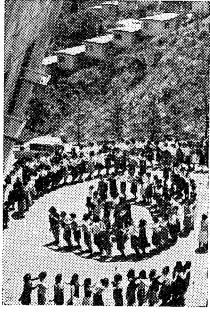
会社関係の大口寄付については金額の制限はありませんが、個人寄付は一口を左のように決めました。大学関係者のご協力を切望します。

- 個人寄付 (一口に付) A 三、〇〇〇円 B 五、〇〇〇円 C 一〇、〇〇〇円

セミナー・ハウス
利用状況

▲四月

- 日本女子大学講師 吉沢 英子
- 新入社員教育 東洋 高圧
- 神奈川大学写真研究部
- 早稲田大学 山田 隼
- 青山学院大学 田島 恵児
- 早稲田大学 竹内 常行
- 早稲田大学 井上 祥平
- 早稲田大学助教授 酒枝 義旗
- 慶応義塾大学助教授 石坂 巖
- 慶応義塾大学 阿久沢亀夫
- 東京大学助手 谷口 晋
- 農芸化学若手研究者の会 菅田 淳
- 埼玉大学教授 深見秋太郎
- 国際商科大学 泉 暹
- 日本女子大学講師 田端 光美
- 慶応義塾大学助教授 村田 昭治
- 東京歴史科学研究会 依田 憲家
- 東京大学助教授 大丸 義一
- 東京女子大学教授 杉山 好
- 中央大学教授 藤永 保
- 中央大学教授 江副 敏生
- 中央大学教授 石原 忠男



白梅学園短大のレクリエーション風景

- 慶応義塾大学助教授 藤田 広一
- 中央大学教授 桜木 澄和
- 神奈川大学教授 中島 勝
- 法政大学 尾形 憲
- 杉野女子短期大学 田村 皖司
- 横浜国立大学助教授 宇田川璋二
- 東京大学化学教室 横浜国立大学教授 井手 文雄
- 早稲田大学教授 西沢 脩
- 日本大学教授 名東 孝二
- 管理職研修 三井物産 金原 左門
- 中央大学助教授 尾形 健
- 明治学院大学教授 高橋 正男
- 独協大学講師 木村 栄一
- 一橋大学教授 金丸 重嶺
- 日本大学 木川統一郎
- 中央大学教授 二神 恭一
- 早稲田大学助教授 長洲 一二
- 横浜国立大学教授 武蔵工業大学新入生歓迎セミナー 日興証券
- 管理者研修 三菱レイヨン
- 計算管理部研修 小川 信子
- 日本女子大学 榎立欽四郎
- 一橋大学教授 細谷 千博
- 早稲田大学助教授 杉村 新
- 東京大学助手 水野 正夫
- 慶応義塾大学教授 磯部 浩一
- 明治学院大学教授 田村 茂
- 慶応義塾大学助教授 荒井 献
- 青山学院大学助教授 藤渕 竜夫
- 東京農工大学教授 藤渕 竜夫
- 立正大学助教授 杉沢 新一
- 専修大学教授 津田 昇
- 早稲田大学教授 村松林太郎
- 早稲田大学助教授 金子 六郎
- 早稲田大学教授 春日井 博
- 日本大学教授 岩井 肇

▲五月

- 東京大学教授 川田 侃
- 青山学院大学助教授 関田 寛雄
- 青山学院大学 原 恵
- 早稲田大学教授 西村朝日太郎
- 専修大学教授 菅井 準一
- 一橋大学教授 岩田 一男
- 東京工業大学助教授 末松 安晴
- 日本大学教授 西村 光夫
- 一橋大学教授 永原 慶二
- 都立工業短期大学助教授 都立工業短期大学助教授 矢田 博
- 共立女子大学聖書研究部 谷口 修
- 東京工業大学教授 佐山栄太郎
- 東京女子大学教授 川崎製鉄
- 掛長研修会 三井物産
- 管理職研修 齋藤 謙
- 和泉短期大学 多休問題研究会 津田塾大学フレッシユマン・キヤンプ
- 白梅学園短期大学保育科オリエンテーションセミナー テーシヨンセミナー
- 東京教育大学助教授 関口 晃一
- 中央大学助教授 吉川 道夫
- 立政大学教授 四宮 和夫
- 法政大学教授 栢野 晴夫
- 順天堂大学学生部次長 石塚司農夫
- 管理職研修 三井物産
- 一橋大学教授 増淵 竜夫
- 計算管理部セミナー三菱レイヨン 保科 洋
- 東洋音楽大学講師 小竹 豊治
- 慶応義塾大学教授 古銭良一郎
- 青山学院大学助教授 桃沢 力
- 中央大学教授 谷 信一
- 共立女子大学教授 谷 信一

●ゲスト・ルーム宿泊者

- 社内教育 伯東株式会社
- 東京工業大学教授 内藤 正
- 法政大学講師 古西 信夫
- 早稲田大学教授 井上 宇市
- 社内教育 日本電気
- 立正大学教授 石川 与吉
- 東京都立大学教授 伊丹 潔
- 管理者研修 日興証券
- 東京工業大学教授 松田 武彦
- 普通連学園高等学校 小笠原春子
- 東京大学助教授 和田 昭允
- 慶応義塾大学教授 中鉢 正美
- 慶応義塾大学講師 山口 喬
- 法政大学教授 田沼 肇
- 青山学院大学助教授 関田 寛雄
- 青山学院大学助教授 向坊 長英
- 日本キリスト教奉仕団 酒枝 義旗
- 青山学院大学教授 相良 守次
- 早稲田大学教授 小堀 巖
- 東京女子大学教授 日野自動車生産推進本部
- 東京大学助教授 村井 実
- 慶応義塾大学教授 マーケティング研修三菱レイヨン
- 酒枝義旗氏・新井邦男氏・岩崎力氏・瀬川善信氏・丹下博之氏・芦田淳氏・渡辺彰氏・西沢脩氏・名東孝二氏・田内幸一氏・山田良之助氏・境永次氏・川浦潔氏・小玉克己氏・中岡二郎氏・西川保重氏・神山光男氏・下田弘氏・佐竹誠也氏・山田良之助氏・杉村新氏・中村一明氏・相良光氏・児玉久雄氏・一番ヶ瀬康子氏・川原栄峰氏・岩田一男氏・吉田竜郎氏・窪田庄十郎氏・秋庭雅夫氏・久保亮五氏・金沢秀夫氏・小口明秀氏・中島武夫氏・田内幸一氏・村田昭治氏・高見幸郎氏・藤田タキ氏・中村ミチ氏・伊藤昇氏・樋口愛子氏・阪谷俊作氏・川瀬武志氏・田中未来氏・三浦徳子氏・北和子氏・石川元雄氏・川瀬武志氏・佃純誠氏・小野桂之助氏・柴田典男氏・中村善太郎氏・村井孝子氏・藤田たき氏・八重島建二氏・前川祐一氏・高木栄一氏・小竹豊治氏・玉置紀夫氏・古銭良一郎氏・笹原正隆氏・道正洋三氏・遠山景敏氏・角田三郎氏・中村実氏・永利植美氏・大島貞夫氏・高久真司氏・津守一郎氏・丸博氏・由比宏忠氏・鎌田篤造氏・釜瀬海山氏・江頭年男氏・松山安伸氏・松田武彦氏

専務理事ノート

○この春電通大を卒業した大塚君が月給の初穂二千元を送ってくれたが、三井銀行の佐藤会長が図書館はうちで寄付してあげようと言っておき、たときと同じように私は痛く感激した。

○山内恭彦先生は鈴木、川原、西村の三君はいつ来ても顔をみるねといわれ、彼等は金鶏勲章組だといってほめられたが、二年間に多くの協力者が与えられ、その幸わさを銘記したい。